

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第32号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



『秋分の 時どり雨や 荻(え)のしづく』・・・飯田蛇笏(いいただこつ)

「秋分の日」は、二十四節気の秋分に入る日をさしています。太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日で、彼岸の中日です。国民の祝日になっており、国民の祝日に関する法律で「祖先をうやまい、なくなった人をしのぶ」という趣旨になっているのは、お彼岸にお墓参りをする風習を踏まえているからです。

秋分の日を中日とした前後3日、合計7日間を彼岸といいます。春にも春分の日を中日とした彼岸があります、春のお彼岸(春彼岸)、秋のお彼岸(秋彼岸)など呼び分けることもあります。秋分の日・秋分 お彼岸のお供え「おはぎ」は、お彼岸のお供えの定番です。

お彼岸にはお墓参りをする風習があり、この時期の花に「彼岸花」があります。

そして、お供えものの定番の「おはぎ」は、秋分の代表的な食べ物です。



写真(1): 金木犀



写真(2): おはぎ

報告(1)・・・令和5年度特別国民体育大会 第43回九州ブロック大会 剣道競技

令和5年8月20日(日)、大分市レゾナック武道スポーツセンターにおいて標記選考会が開催されました。

本大会は全種目3枠で、内少年女子が激戦の九州を突破しました。少年女子は総当たりリーグ戦において福岡、佐賀、熊本と4勝同士で並びましたが、勝者数で上回って1位通過することができました。少年女子は島原高校と西陵高校の選抜メンバーでチーム力が高く、本大会でも上位入賞が期待されます。成年女子は7位、少年男子は4位と、健闘しましたが強豪ひしめ九州ブロックを突破することができませんでした。

第78回国民体育大会は令和5年10月8日(日)～10月10日(火)、鹿児島県霧島牧園アリーナで開催されます。長崎県からは成年男子及び少年女子が出場します。選手の皆さんの実力が十分に発揮され、最高の試合ができますよう祈念申し上げます。

長崎県剣道連盟では競技力向上対策事業として、国体選手等合同稽古会を県内外各地で実施しています。特に隔週水曜日の19:30～21:00に西陵高校剣道場で実施している同稽古会については、選手候補者はもちろん一般有志の方々にも奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

尚、9月の稽古会は9月6日(水)、20日(水)、27日(水)の3回行います。

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>少年女子 1位 (本大会出場) 少年男子 4位 (ブロック敗退) 成年女子 7位 (ブロック敗退)</p>  | <p>【少年女子】1位 (本大会出場) ×長崎2-2福岡○本数 ○長崎2-0佐賀× ○長崎1-0大分× □長崎1-1熊本□ ○長崎2-0宮崎× ○長崎4-0沖縄×</p> | <p>【少年男子】4位 (ブロック敗退) □福岡1-1長崎□ □佐賀1-1長崎□ □長崎1-1大分□ ○熊本1-0長崎× ○長崎2-1宮崎× ○長崎4-0沖縄×</p> | <p>【成年女子】7位 (ブロック敗退) □福岡1-1長崎□ ○佐賀2-0長崎× ○長崎1-0大分× ×長崎0-2宮崎○ ×長崎0-2沖縄○ ×長崎0-2熊本○</p> |
|---|--|---|---|



成年男子(本大会出場)



少年女子(本大会出場)



チームながさき 集合写真

読み物(1)・・・武道修業における所作

長崎県剣道連盟居合道部 高木志伸

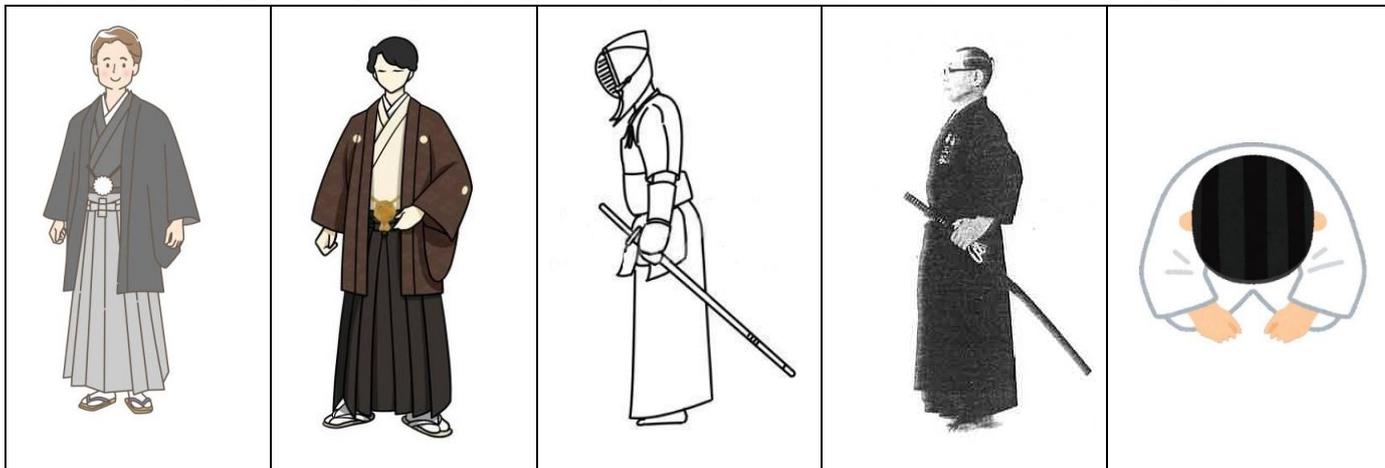
—— 剣道、居合道、杖道を修行する上での所作の大切さを考える ——

【道場に対する所作】

古人の教えに「道場に入るときは身を正し、心にくもり無きように」と教えられています。道場に入るときには、まず心を落ち着け、服装を正し、静かに道場内に目をくばり、一礼をして場内全体を心に留めておく方が良いとされています。これは道場だけでなく**常住坐臥**心得ておくべきことです。まず、剣道具、竹刀、木刀、杖の手入れや刀の目釘をよく確め、道場内外での危険防止に対して充分注意することが肝要です。

※語意1：常住坐臥（じょうじゅうざが）

寝ているときも起きているときも常に心にとめておくことで普通の生活の中で常にという意味。



【袴と着装】「五倫五常、人の守るべき五つの道」

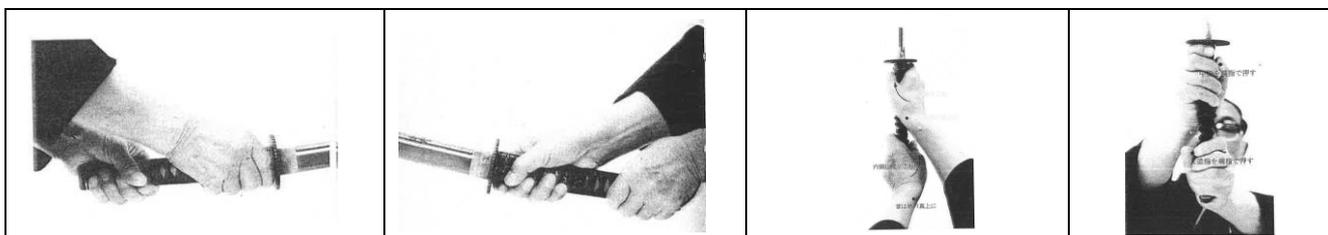
袴は古墳時代に使用した衣袴が袴の起源とされています。袴はその後、変遷を経て奈良時代以後に唐風をとり入れた表袴（うへはかま）がつくられ、中世以後は細い四汎播袴（よりはかま）、近世初期には長袴が好まれました。元禄時代になって現在の居合道その他、武道に用いられている馬乗袴が主流になりました。袴には前に五本の襷（ひだ）があります。これは先人が日常の心がけとして「五倫五常を訓したもの」とされています。すなわち。君臣、父子。夫妻、長幼。朋友・・・仁、義、礼、智、信などの道を袴に足を通すたびに頭に浮かべ、心に刻むようにつくられたものといわれ、「折り目正しい」という言葉もそこから生れたと解されています。また後ろの一本の襷は人として二心の無い、誠の道を示すものであるといわれています。

【間合と目付け】

剣道、杖道、居合道の間合はそれぞれ自分と敵との距離を言います。間合には「近い間合」。「普通の間合」。「遠い間合」があります。剣道ではこれを三つの間合と言っています。真剣勝負とか大切な試合では遠い間合をとるものといわれています。居合でも常に敵の位置を考えて、常に適当な闘合をとらなければなりません。目付けは古人の教えに「遠山の目付け」と教えられています。これは大切な教えで、正座のとき、立膝のとき、立ち業のとき。また剣道でも目は半眼を開き、手をかざして遠山をのぞむような目付けでなければならないのです。

【手の内】

「右手を先に、左手を後に、やんわりと手拭しぼるに持て」とあるように軽く握ります。まず、竹刀の握りは、左手の小指が柄頭なかばにかかるように薬指と共に軽く握り、右手も同じように握る。その他の指は（中指、人差し指、親指）はただ添えるだけ切り突き瞬間に内側に茶巾しぼりをします。また、刀の握りの場合も同じです。居合の場合は、柄当てまたは鑑当ての技がありますので、左小指は柄頭いっぱい握るのが良いのです。両腕に力入れることなく自然に前に出し、左の拳は臍の高さで約一握りほど前に出し、右肘は切り手の肘となる程度に軽く伸ばす。剣先は一般的に相手の喉の高さが理想です。



参考資料：無双直伝英信流教範、全剣連日本刀取扱要領、中山博道、高野佐三郎(月刊剣道日本 掲載記事)